

佐伯ゼミ

<タイトル>

トライポフォビア傾向がグリッターエフェクトによる顔の印象に及ぼす影響

<研究の概要>

スマートフォンの普及により、若者を中心に自撮り写真をSNSへ投稿することが人気である。近年、「グリッターエフェクト」という白い点を肌に載せる加工が話題となっているが、トライポフォビア特性が高い人には不快感を与える可能性がある。本研究では、この加工が顔の印象に与える影響を検討した。

<研究の方法>

女子大学生106名(平均年齢19.21歳、SD=1.26)に質問紙調査を実施。トライポフォビア特性を測定するために日本語版 Trypophobia Questionnaireを使用し、蓮の花托画像(図1)への印象を評価。また、パーソナリティ認知尺度と顔の透明感に関する形容詞を用いて、グリッターエフェクト加工なし・あり(図2,3)の顔写真の印象をSD法で測定した。

<研究の結果と考察>

トライポフォビア特性の高低とエフェクト効果を要因とした反復測定の2要因分散分析を行った結果、トライポフォビア特性に関わらず、グリッターエフェクト加工に不快感を示した。特に高特性群は低特性群よりネガティブな評価が強く(図4)、加工によって顔の印象が向上せず、むしろ悪印象を与える可能性が示唆された。



図1. トライポフォビア傾向測定に用いた刺激

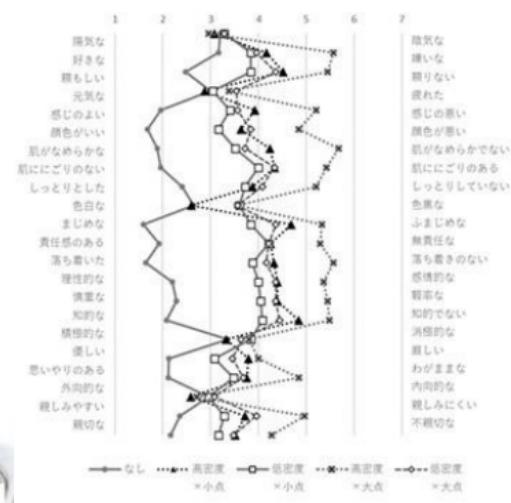


図2.高密度×小点エフェクト女性顔画像

図3.低密度×小点エフェクト女性顔画像

トライポフォビア高群の各顔写真に対する印象